

学校経営

教育方針

めざす子どもの姿

しっかり考える子ども 【かしこさ】

自他を大切にする子ども 【やさしさ】

あきらめずにやり抜く子ども 【たくましさ】

学校教育目標

郷土を愛する豊かな心を持ち、自ら考え、たくましく生きる

中期的な目標

基礎・基本を身に付け、自ら考え、進んで行動する子どもの育成

令和5年度重点目標

考えて伝える子どもの育成

経営の重点

1. 分かる・できるを実感する授業づくり
2. 学力・学級力づくり
3. 家庭・地域との連携

心を磨く自問清掃

自問清掃とは

◎ 目的

1. 児童一人ひとりに宿る「自発性」を高め、脳の「前頭葉」の「意志力・情操・創造性」を磨き、やがて一人前の立派な大人として生きる力を育む。

“玉磨かざれば光らず” “鉄は熱いうちに鍛えよ”

2. 人の顔色をうかがって態度を変えたり、他からの指示命令や利害損失で動くのではなく自分の胸の尺度に従って自らに問いかけ、考え、決めて行動する人間に、裏表なく正直に生きることの爽やかさを知る人間に育てる。

“正直は一生の宝”

◎ 子どもへの働きかけ

1. 掃除についての目的意識を、「学校をキレイにするため」→「人間として成長するため」と、根幹から変える。
2. 教師は一切の指示・命令・注意をしない。なぜなら、人間には自発性があるから、ひたすら、それを信じて待つ。
3. 人間だけが生まれながらに持つ「がまん玉(意志力)・しんせつ玉(情操)・みつけ玉(創造性)」これらは自分で磨かないと輝かない(働かない)。そして、子どもの頃に磨くことが重要。
4. 自問清掃の流れ

(1) 迷惑になるおしゃべりをがまんして、時間いっぱい一生懸命掃除をする。《がまん玉》

(2) どうしてもしゃべりたくなったり、遊びたくなったりしたときは、掃除の邪魔にならない

場所に座って自問する。(座ってがまんしている間は掃除をしなくてもよい。なぜなら、

学校がキレイになることよりも、人間として成長することの方がより大切だから。)

そして、掃除ができる気持ちになったら、再び掃除に取り組む。(休んでいる人に対して

→その人は自分の心を立て直すために、自分に問いかけながら頑張っているわけだから、

責めないで広い心で許す気持ちを持つ。)

- (3) 互いに相談できない不自由さをカバーするために、まわりの人の気持ちや困っている様子を考え、気配りをしながら働く(気働き)。《しんせつ玉》
- (4) 早く掃除が終わった場合でも、他に美しくできるところはないか見つけながら、時間いっぱい掃除をする《みつけ玉》
- (5) 掃除が終わったら教室にもどり、自問ノートを書く。自分をふりかえり3つの玉が磨けたかどうかということや、友達の価値ある行為に対する共感などを中心に、思ったことをありのまま素直な気持ちで書く。

自問清掃の様子



掃除前のチャイム中の黙想



時間いっぱいだまってそうじ
《がまん玉》



ほかにするところはないかな
《みつけ玉》



掃除後のチャイム中の黙想